

日本鐵鋼協會記事

理事會 (8年度第10回) 昭和8年12月6日(水)午後5時開會 **出席者** 河村曉君、渡邊三郎君、今泉嘉一郎君、香村小録君、鹽田泰介君、三島徳七君 **協議事項** 1) 服部博士記念資金取扱委員會委員缺員補缺として川上義弘君を推薦に關する件(可決) 2) 第19回通常總會並に第12回講演大會開催に關する件 3) 第10回研究部會議題選定に關する件(決定議題第9回研究部會第5回製鋼部會電氣製鋼爐の問題を繼續する事、期日は第12回講演大會と同期とす) 4) 入退會者及會員異動に關する件(自10月5日至12月6日)。

(イ)新入會者承認數 正會員6名 準會員9名 計15名

(ロ)准會員より正會員に變更 大阪工大助教授工學士岡田實君

(ハ)退會承認者 正會員 三菱造船研究所(理研に變更)九州製鋼株式會社(維持會員に變更) 准會員 鈴木庄藏、佐藤作次、佐藤良藏 5名

(ニ)死亡者 2名

5) 其他會務に關する諸件

報告事項 1) 昭和8年10-11月中收支決算報告 2) 古市男爵壽齡祝賀會準備經過報告及據金決算報告(日本工學會同委員會報告)

3) 工業博物館調查委員會報告(日本工學會同委員會報告)

以上審議し午後7時30分散會せり。

編輯委員會 (8年度9回) 昭和8年11月28日(火)午後5時開會 **出席者** 河村會長、委員石原善雄君、池田正二君、田中清治君、山田良之助君、三島徳七君、鹽澤正一君 **協議事項** 1) 第9回研究部會速記録審査 2) 第12回講演大會並に第10回研究部會開催に關する件 3) 鐵と鋼第20年第1號(昭和9年1月號)上掲原稿選定の件 4) 其他會務に關する諸件等にして午後8時散會す。

鐵と鋼第20年第1號上掲論文原稿

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1. 電氣鐵板の製造に就いて | 西山彌太郎 |
| | 中島道文 |
| 2. 橋梁用材料としてユニオン鋼材 | 太田三吉 |
| | 川口壯吉 |
| 3. 銅を主成分とする銅-錫-亜鉛合金の平衡狀態圖に就いて | 山口珪次 |
| | 中村晃三 |
| 4. アルミニウム及アルミニウム合金の新防蝕法 | 田崎正浩 |

新入會者

居所又は宛名先	勤務先、職業	會員別	新入會者氏名	紹介者
大阪市住吉區共立通1の47 麴町區丸ノ内1の6海上ビル渡邊製鋼所 豐島區池袋2の936 中華民國山西省西北實業公司鐵業組 中華民國山西省太原小東門汽車廠 新潟市山ノ下新潟鐵工所新潟工場 "	安宅商會 渡邊製鋼所營業部長 專賣局板橋製作所	正 " " " " 准 " "	鐵本實君 佐藤英夫君 三上美和吉君 李銘元君 仇慕漳君 內田敏治君 西名權太郎君 上村勝二君 江川朗一君 北野傑君 江上一郎君 八田敏二君 稻留允彦君 若松志廣君 池田滋君	三島徳七郎 村松橋太 " 鈴木木益廣 山田水良助 清島之要 岡島良藏 " 松浦春吉 " 山口珪次 山田良之助 藤井寛 吉川晴十 鹽澤正一 " 藤井寛 "
大阪府北河内郡四條綴村清龍 628 小石川區西原町2ノ5 大阪市住吉區旭町1の27押田芳之助方 本郷區追分町53基督教青年會館寄宿舍 牛込區若松町67 東京府下武藏野吉祥寺町1,8,8 大阪府京阪沿線香里磐上寮 "	工學士 大阪府金屬材料研究所 工學士 東京電氣株式會社 大阪帝大學生 東京帝大學生 早大學生 " 大阪帝大學生 "	" " " " " " " " "	鐵本實君 佐藤英夫君 三上美和吉君 李銘元君 仇慕漳君 內田敏治君 西名權太郎君 上村勝二君 江川朗一君 北野傑君 江上一郎君 八田敏二君 稻留允彦君 若松志廣君 池田滋君	三島徳七郎 村松橋太 " 鈴木木益廣 山田水良助 清島之要 岡島良藏 " 松浦春吉 " 山口珪次 山田良之助 藤井寛 吉川晴十 鹽澤正一 " 藤井寛 "

死亡者

正會員 村田素一郎君(十二月八日) 准會員 難波靜磨君(十一月十八日) 兩氏の逝去されたるは痛惜の至りなり。
茲に謹んで弔意を表す。

日本鐵鋼協會第十一回講演大會狀況報告

昭和8年10月15日より同月19日に亘り本會第十一回講演大會を中京名古屋市に於て舉行す。第一日15日は電氣爐に關する研究部會を開き參會者65名、午前中講演者5名、午後豫め配布せる資料に就て有益なる研究討議を行ひ16、17の兩日に亘る學術講演大會は參會者200餘名、講演數27の外16日通俗講演會を開催し講演數3、一般聽講者400餘名に達し盛況を極む18、19日兩日に亘る見學工場數9にして盛大裡に豫定のプログラムを終了したるは名古屋高等工業學校、官衙、會社各工場並に委員長副委員長始め各委員の熱誠なる盡力によるものにして本會の感謝措く能はざる處次に其概況を報告せんとす。

第十一回講演大會

準備委員氏名及分擔

分 擔		
委員 長	兼見學係長	秋 山 正 八君
副委員 長	兼 總 務 講演係長	伊 藤 萬 太 郎君
"	兼研究部會係長	川 崎 舍 恒 三君
委 員	總 務 接待係長	松 良 正 一君
"	見 學 通俗講演係長	石 澤 命 知君
"	講 演	深 田 辨 三君
"	講 演 研究部會	小 林 子 之 輔君
"	講 演 總 務	岡 田 俊 一君
"	講 演	竹 内 保 資君
"	講 演 研究部會	神 邊 武 雄君
"	通俗講演會	渡 瀬 常 吉君
"	"	須 永 信 二君
"	見 學	野 村 健 彦君
"	"	木 村 弘 人君
"	見 學 總 務 接 待	渡 邊 九 二君
"	講 演 研究部會	細 川 清 二君
"	研究部會	稻 津 健 介君
"	"	林 達 夫君
"	研究部會	錦 織 清 二君

日本鐵鋼協會第9回研究部會狀況

10月15日(日) 午前9時開會

會 場 名古屋高等工業學校講堂

出席者 委員及役員計60名 外に議事整理員5名 速記者4名
特別傍聽者數名

議 題 第5回製鋼部會 電氣製鋼爐の操業並に構造に就き改善すべき點如何

本會は本協會の内規に據り各工場側推薦委員、本會推薦委員及本會役員を以て組織せし一團體にして出席者は定刻前より會場に詰かけ受付にては一一委員名簿と對照し研究資料一括表及着席番號付き委員名簿を交附し着席を待つて定刻を遅ること15分先づ河村會長立つて次の如く開會の辭を述べられたり。

研究部會開會の挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 曉

之より本會第九回研究部會、第五回製鋼部會として電氣

製鋼爐の研究部會を開催致します、本題を選定致しましたるに就きましては當地の場所柄誠に其當を得たる企てとして各方面より賛辭を受けました事は本會の欣快とする所であります、我國の電氣製鋼事業は近年長足の進歩を見まして電氣製鋼爐を設置して居る處の工場數は全國64工場の多きに達して居るのであります、之れ等の工場に對しまして今回調査項目表を配布して御報告を願ひ且つ委員の選出を御願致したる處報告の出揃ました數は33、爐數44爐、工場委員選出數49名に達し中に本會推薦の委員21名、本會役員17名を加へ委員總數87名、中出席數65名と云ふ多數の委員を以て本日研究部會を開くに至つた次第であります、かく盛況を見るに至りました事は現在如何に電氣爐が本邦製鋼事業上重要な位置を占めて居るかを物語るものであつて將來も亦益々其重要性を加へ一層の盛況を見る事と豫想さるゝのであります、之の研究部會の企により我國電氣製鋼事業の振興上に相當の効果を齎らされる事は本會の熱望して止まざる處であります、今回の調査項目の選定並に報告書の整理、作表等に就きましては専ら大同電氣製鋼所常務川崎舍博士の御盡力によるものでありまして茲に厚く御禮を申述べます、又事務局柄事業多端の際にも不拘各工場より多數委員の御出席を得ました事に就きましても感謝の意を表します、之より御手許に配布致しましたプログラムの順序に従ひ研究討議を進めたいと思ひます。

先づ順序として委員長の選舉に移ります。

此時水谷委員より選舉を略し會長の指名となしたき動議を提出せられ満場一致之に賛成せられたるを以て會長より次の通り指名す。

委員長 川崎舍恒三君(一同拍手)

川崎舍博士委員長に推さるゝや立ちて就任挨拶に引續き資料の一括に就きての報告と同時に處感を述べられ委員長席に移り次の講演を紹介す。

1. 本邦に於ける製鋼用電氣爐孤光爐の發達
に就て 佐 藤 政 一君
2. 電氣爐の設計に就て 野 崎 榮君
3. 電氣孤光爐内の溫度分布及孤光爐設計の
二三の要項 向 山 幹 夫君
4. フィヤット式電氣爐に就て 荒 木 彬君
5. 鹽基性電氣製鋼法に於ける經濟的考察 中 村 道 方君

以上の講演に對し質疑應答ありて午前の科目を終り晝食後1時より各所提出資料に就きて其説明及討議を開始せるに各員長時に亘り熱心眞摯によく検討を續け時間の移るを覺へず午後6時に至るも尙討議盡きざるを以て余を次回に約し閉會を決議し河村會長立つて次

の如く閉會の挨拶を述べられ全員拍手を以て満足の意を表し散會せり。

研究部會閉會の挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河村 驥

閉會の御挨拶を申述べます。

當初豫想致しました通り本日の研究部會が盛況裡に終始致しました事は本會の欣幸とする處であります、茲に委員始め講演者並に各委員の熱誠なる御盡力に對し深く御禮を申述べます、只何分にも問題が廣汎に亘つて居りますので中々1回丈では全部を終了する事は困難であります、之の研究部會は今後一回若しくは二回繼續して開催し完了を期したいと思ひます、從て今後尚ほ各工場各委員へ御照會申上げ資料の補充を御願致す事もあらうと思ひます、何卒御含置を願つて置きます、毎度申上ます通り本會研究部會は國內一致協同の力により外國に對抗して一步も譲らざる程度の進歩を期したいと云ふ主旨によるものでありまして之の事は今日の時局柄殊に重要な事項と考へます、何卒今後共一層の御盡力を切望する次第であります、之にて本日の研究部會を終ります。(一同拍手)

以上狀況を觀察するに本協會役員會に於て選定したる本議題は本邦現時に於て最時宜に適し斯業の發展上資する處鮮少なからざるを覺ゆ。散會を待つて東海電極並に大同電氣兩株式會社にて研究部全員を八勝館に招待饗宴ありたり、此日午後4時より秋雨襲來し明日の天候氣支はる。

講演會之部 (深田委員起草)

講演會場として名古屋高等工業學校大講堂を充て受付、準備室、控室、食堂其他諸般の準備遺憾なく整頓せられ殊に圖表掲卸の裝置は實用に適し最も迅速に行はれ講演時間の促進上多大の便宜を得たり。

第1日 10月16日(月曜) 午前9時開會

昨夜來の雨尙止まず仲秋の氣満ちて學術に精進するの徒には好箇の落付を與へたり、名古屋市に本會大會を開催せらるゝは今回を以て嚆矢とし參會者200名以上に達し意外の盛況を見たり。

午前9時10分大會準備委員長秋山正八君の次記の開會の辭あり。

開會の辭

社團法人日本鐵鋼協會第11回講演大會委員長

日本車輛株式會社常務取締役 秋山 正 八

今回日本鐵鋼協會に於て當名古屋市に第十一回講演大會を開催せらるゝこととなりましたに付て我々當市に於ける本會々員が其の準備に携はることとなりました、私は其の準備委員長を務めました關係上本講演會開會に先立ち準備委員を代表して一言御挨拶を申述べたいと思ひます、當時

委員長は前高等工業學校々長森博士が其の任に當つて居られましたのでありましたが先頃御老年の故を以て退かれ東京に御歸りになりました爲めに私が代りて之れを務めることとなつた次第であります。

本協會が當市に於て講演會を開かるゝのは今回が初めてであります、本會幹部が本年の大會開催地として當地を撰定せらるゝに至りましたことは其處に自から勢力あつたものと考へて良いかと思ひます、當地方由來纖維工業地として知られた所であります近年又各種鐵工業方面に於ても相當の發達就けて參りました、航空機工業に於ては本邦有數の地と今日云ふことを得るかと思ひます、纖維工業に伴ふ紡績機械の製造に於て或は車輛製造の工業に於て或は工作機械製造に於て或は電氣製鋼の工業に於て又は電氣機械の特種部門の製造に於て可なり發達をなして來て居ります、勿論東京地方又は京阪、神戸地方の盛大に比して遠く及ばざるものありと雖も中部日本が工業的に進歩發展しつつあることは認め得る處であります、是等工業の内材料の製造を主とする工業は大同電氣製鋼位のものでありますが材料使用の上に大に本會の知識を必要とするもの多々あるは申す迄もなきことでありまして此の部門に關して當地方の工業技術者を啓發することは我が國工業界の爲めに甚だ有效なることにして必要なことと思はるゝであります、本會幹部が此の點に思ひを致たされ本講演大會を當地に於て開催さるゝに至りしものとして我々は本會理事者に對し敬意を表すると共に之れによりて當地方工業界の受くる影響の甚だ大なる事を考へ深き感謝の意を表するものであります、夫にも拘らず我々準備に携はりあるもの甚だ不行届にして講演場設備に於ても又は御見學の上に於て御希望に添はぬこと多々あることを恐縮に存するものであります、殊に當時軍需品製作に携はらぬ工場なき有様にして工場内に於ても御覽に入れ得ぬ場所も多々ある次第にして一層御満足をか得ぬ點に付御詫をしなければならぬと思ひます、之等に付ては特別御容赦賜らんことを御願ひ致します。

最後に本大會に際し會員諸君が斯く多數全國より御集まり下され本會の盛大を得ましたこと並に有力なる會員諸君が其の貴重なる研究を御發表下さることに對し厚く御禮を申し又講演終了後當地方及其の工業を充分に御視察下され何事によらず御注意の點御教示御指導を賜らば望外の仕合に存じます。

以上秋山委員長の開會の辭に次で順次水谷博士、渡邊博士、松下理

事、石原博士、齋藤博士、司會の許に豫報のプログラムにより順次講演せられ松川、絹川、内藤、多賀谷、齋藤 5 氏の順序に講演は進行し正午過 10 分午前中の豫定を終り休憩中食となる、午後 1 時振鈴を合圖に再び開會し岡田、柴田、矢島、志村、山田、石澤、中島 7 氏の熱誠溢るゝ講演あり、本日最終の倭東大名譽教授の講演は同氏不得已事故の爲め同教室の梅津博士代講せられ午後 5 時半極めて盛況裡に第一日のプログラムを終了し午後 6 時より名古屋商工會議所に於ける別記の通俗講演に移れり。

第 2 日 10 月 17 日 (火曜)

案ぜられたる雨も昨日午後より晴れて早朝より參集せらるゝ會員談笑の聲堂に滿つ、豫定の如く午前 9 時より順次村上博士、吉川博士、石川博士、川崎舎博士、鹽田博士、河村會長の司會の許に中村、嘉村、梅津、佐藤、武田、村上諸氏の 6 講演を終り中食後午後 1 時再開山口、鳥羽、三島、錦織、黒田、藤原、濱住、石原諸氏の 8 講演を終る頃暮色會場を包む。終りに河村會長立ちて別記の閉會の辭を述べられ前後 2 日間に亘る學術講演を終了し名古屋商工會議所に於ける懇親晚餐會に移れり、茲に講演者の熱誠克くその要旨を明亮に開陳せられ聴講者一同裨益する處渺なからざりしを特記し感謝の意を表す。

講演大會閉會の辭

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 曉

第十一回講演大會の終了に當り簡単に閉會の辭を述べます、從來日本鐵鋼協會に於きましては春季に於ては本部の所在地たる東京に秋季に於ては鐵鋼主要生産地たる八幡、大阪、室蘭等に於て開催し來つたのでありますが今回は本邦 6 大都市の一として鐵工、機械工業の一大中心地であり且つ將來も益々諸工業の發達すべき傾向を有する處の之の名古屋を選定して之れ等諸工業の基礎をなす處の鐵鋼の學術、技術の振興を目的として開催致したものであります、從て講演の種類も熔鑄爐、平爐、壓延機等の鐵鋼の多量生産に關する事項よりも特殊鋼又は鐵鋼其他金屬の性質に重きを置いた講演の多かつた事は當然の歸結と考へらるゝのであります、今回の講演會の狀況は昨年秋季大阪に開催しました時の講演數の 40、出席者 300 名に比し稍々劣つて居る感はありますが之は恐く鐵鋼事業が時局多忙の爲め講演者の準備をなす餘暇の少なかつた事に歸因するものでありましてそれでも尙ほ且つ講演の數 27、出席會員數 210 名外傍聴者等多數に上ぼり且つ講演會場を從來の如く 2 部に分つ事なく全講演を聴講するの機會を得た事は聴講者諸君の却て便宜とせられた處と信じます、尙ほ將來の爲め聊か所感を述べますならば先づ當名古屋高等工業學校の講堂の設備は圖表の掛け卸しは素より其他食堂等の附屬設備も萬端完美して居り之の設備の使用を許可された事は誠に感謝

の至りであります、又論文大要の提出は今回は從來よりも餘程早く出揃ひましたので印刷上大いに便宜を得ましたが論文の前刷の二論文に止まりました事は稍々物足りない感じがありました、本會では全文提出の方の論文は前刷と致し且つ直に之を會誌に挿入するの便宜を得るのであります、從來の大會の論文も第九回、第十回の大會の分が今尙ほ出揃はぬものもありますので印刷の促進上差支へる場合もありますので今後は可成早く御提出を希望する次第であります、見學は目下軍事工業の箇處の多い關係上見學人名簿提出の必要がありますので期限後の申込者に對しては再三の手數を要しますから可成期限迄に御申込ある様希望致します、又講演は會誌の發行と共に本會の二大事業の一とも申す可きものであります、而して會誌は講演を載せるのでありますから講演の實質内容が良ければ會誌も亦其内容が充實する譯であります、今回の講演が獨想的のものゝ多かつた事並に正に實際工業に移し得るものと認めらるゝものゝ多かつた事は喜ぶ可き現象と信じます、又講演時間の如きも數ヶ月若しくは數年に亘り研究せられた事項を僅か 25 分間で講演し盡す事は中々困難であります多年御修練の結果時間が餘程正確になりまして司會者が其制限をなすの必要なかつた事並に講演の方法に就ても先づ最初に研究の目的を明示し其結果を述べ而して研究の經過に就ては時間の免す得る範圍で取捨すると云ふ様な模範的の講演も數多ありました事は誠に結構な事と存じます、尙ほ次回は明春四月初旬東京に於て開催致しますから何卒一層御盡力の程切望致します、尙ほ明日よりは多數の工場の見學もある事ではありますが之の機會を持ちまして今回の大會に就て準備萬端多大の御盡力を煩はしましたる委員長、副委員長、委員諸君並に當校の職員各位に對し深厚なる謝意を表します、恐く當地準備委員諸君の御同情と熱誠なる御盡力なかりせば今回の如き盛會は期せられなかつたであらう、又多數の講演者、講演司會者並に一般聴講諸君に對しても厚く御禮を申述べまして本講演會を終る事とします。(拍手)

第 1 日夜 通俗講演會の部 (石澤委員)

主催 日本鐵鋼協會 名古屋機械談話會 名古屋工師會
工政會東海支部 聯合

時日 昭和 8 年 10 月 16 日 (月) 午後 6 時

會場 名古屋市 名古屋商工會議所

10 月 16 日午後 6 時商工會議所講堂に於て開催さる、當地は鐵鋼

の大生産地にはあらざるも夫れを利用する機械工業特に航空機、時計、自轉車の製造業の發達せる所なる故今回の通俗講演會は多大の期待を以て迎へられ、満場立錫の豫地なく聴講者約 400 人を越えるの盛況であつた。午後 6 時 20 分委員長日本車輛常務取締役秋山正八氏別項記載の開會の辭を述べ、河村會長の紹介により石川博士登壇、「鑄物について」の講演は約 50 分間に亘り明快なる口調で行はれた、聴講者の大多數は市内及び近郊の工場に従事する人々である關係上甚だ興味を以て理解すると同時に從來の蒙を啓かれた點が多かつたと見受けらる。

午後 7 時 20 分河村會長は松村博士を紹介し、松村博士の「材料試験に就て」の講演が開かれた、博士は機械工業に使用する金屬材料の良否を決定し且つ又其機械的性質を知るに必要な試験方法の種類と其要點について簡易に正確なる知識を與へらるる事約 50 分間であつた。

午後 8 時 20 分河村會長は本多博士を紹介し本多博士の「鋼の焼入について」の講演を始められた、博士は最も通俗的に鋼の組織と其性質とを説かれ引いて如何せば夫々の性質を具備せしめ得るか、之れが焼入れの要點であるとの根本より明確に講演された。

聴講者は何れも夫々の第一人者の權威より直接に平易に機械製造工業に最も主要なる金屬材料の性質について、要點を教へられたる事とて甚だ感銘深き様であつた。

午後 9 時 30 分河村會長の別項の開會の挨拶を以て此の盛大なる通俗講演會を終了した。

通俗講演會開會の辭

日本鐵鋼協會 秋山正八
第 11 回講演大會委員長

今回當地に於て鐵鋼協會第十一回講演大會が開催せらるることになりましたに付て其の御集まりの最有力なる會員に御願ひして本夕通俗講演會を開くことになりました所斯く多數御來集を得ましたことは本會の最も光榮とする所であります、其の講演に先立ちまして本會の性質に付少しく御紹介を致したいと思ひます。

御承知の如く近年工業界の進歩發達は實に非常なるものにして今日の結果を見て明日の豫斷を許さぬ有様であります、其の進歩發達に付て其の内容を検討して見るに 3 つの大なる要素の改良進歩があるのであります、即ち設計考察の改良發達、使用材料の進歩、製作操業の熟練改良であります、其の何れもが此の工業品の優良化を成するに相違ないのであります、特に使用材質の佳化發達は直ちに設計考察の佳化改良の出發點となり工作方法の進化を招ぐ次第にして其の影響する所最も深く大なるものがあるのであります、近年特殊鋼の發達又は輕合金の進化完成が工業品或は工作方法の上に如何なる變化を持ち來らしたかは諸君も好く御承知の通りであります、本鐵鋼協會は此の材料の研究を目的とする學會でありまして本日御講演下さる鋼の世界

の權威者本多博士、鑄造界の第一人者石川博士、材料物理的性質の研究者としての第一人者である松村博士を初め我國に於ける此の問題に關係せられて居る殆んど總ての權威者學者を網羅して居るものであります。其の學會員が今回全国各地より當地に集まれて大講演會を開き當地方の工業を視察せらるゝに付て其機を利用して本夕の此の重要な通俗講演を開きたる次第でありまして私は本鐵鋼協會の此の催しによりて當地方の受くる利益影響の甚だ大なるものあることを思ひ本會の幹部に對し厚き謝意を表するものでありますと同時に當地方の近年の工業の發達進歩が本大會を當地に開催することを導きたるものと思ひ諸君と共に慶賀に堪へざるものであります。何卒諸君は本夕此の講演を御聴き下さるのみならず今後も本會の利用者となり援助者となり當地方工業の發達に資せられんことを希望する次第であります。

通俗講演會閉會の辭

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河村 驍

最早時間も餘程進み且つ多數の講演を聴講せられ御疲れの事と存じますから極めて簡単に閉會の御挨拶を申述べます。

今回御當地に於きまして日本鐵鋼協會第十一回講演大會を開催致したる機會に於て名古屋機械談話會、名古屋工師會、工政會東海支部の三團體と聯合して通俗講演會を開催致したる處多數聴講者の御參會を得まして盛大裡に講演會を終了致しました事は本會の最も欣幸とする處であります、本夕の講演の演題に就きましては當地の準備委員諸君の御希望を參酌して選定したものであります、乃ち當地は鐵鋼の多量生産地と申すよりも寧ろ機械工業地なるが故に鐵鋼の使用上參考となる可き演題を選ぶ様にとの御注文がありました、そこで本多、松村、石川の三博士を煩はし何れも鐵鋼使用上重要な題目に就て御講演を御願致した次第であります、抑も學術と實地とは其間密接なる關係を保ち互に相倚り相扶けて實際の運用上遺憾なきを期せねばなりません、申す迄もなく今夕の講演者たる三博士は鐵鋼の學術技術に對し極めて造詣深き方でありまして斯界の威權者であり又今夕の聴講者諸君は恐く平素鐵鋼使用上の實際に携つて居らるゝ方並に鐵鋼の使用上に關する趣味を有せらるゝ方が多いと存じますから之の講演會の企てによりまして幾分なりとも學術と實際との關係をして一層緊密ならしむるに效果ありと致しますならば鐵鋼學術技術の振興機關た

る本會の目的は達せられたものでありまして本會の最も欣快とする處であります、茲に本夕の講演會開催の準備に對し御盡力被下たる準備委員諸君並に本夕の講演者たる三博士に對し厚く御禮を申述べると同時に多數參會者諸君の熱心なる聽講に對し感謝の意を表し併て聯合三團體並に名古屋工業界の將來益々隆昌ならん事を祈り本會を閉つる事に致します。

晩 餐 會 狀 況 (松良委員起草)

10月17日、名古屋商工會議所に於て開催す、來賓並に會員合せて101名、午後6時45分開會 宴デザートコースに入るや河村會長より別項記載の如き一場の挨拶あり、次で名古屋市長大岩勇夫氏起ちて來賓を代表して謝辭を述べられ且つ市の現状に就き説述し工業都市としての將來に就き今後充分の援助あらん事を希望せらる、次で河村會長より慣例により5分間演説を開始す可き旨並に進行係として指名の許可を得度旨満場に諮り一同拍手賛成の意を表す。以下指名の順序に従ひ先づ日本車輛常務秋山正八君は鐵材が全部國產品にて間に合ふ様に迄進歩したるは甚だ悦ばしき事なれ共未だ其價格が外國品よりも高價なるものあるは甚しき苦痛なるは事實なり、何卒此點に就きても會員諸氏の御研究を願ひ吾々鐵材消費者就中之を材料として輸出機械を製作するものをして満足せしめられん事を希望せらる、次に名古屋工廠長高須少將は國際平和の確保は武力の充實にありとし陸軍器材としての特殊鋼の發達に就て希望せられ、次で京大名譽教授齋藤大古氏は八幡製鐵所の進歩發達の經路を詳述し本邦製鐵鋼業の近年の進歩の狀況は之を過去に比較する時は實に隔世の感ありとし而して將來に對しては會員一層の努力を希望せらる、次に愛知時計電機社長青木謙太郎氏は諸種の金屬材料が殆んど總て國產として製造せらるゝも其製産力が未だ充分ならずして所要期日に對し満足を得ざるは甚だ遺憾とする旨述べらる、次で住友製鋼所常務荒木宏氏は今回の講演會開催に對する役員の勞を謝し且つ鐵鋼生産者としての立場より今日の急激に増加せる需用額を見る時は其生産が如何にも不満足に感ぜざるゝは最もなる事ながら2,3年前に溯り回顧すれば實に其最小の設備能力による生産さへも其消化が憂慮せられた次第であつて今日にては急激なる増加に應ずる爲め何れの工場も生産設備の増加が着々進捗しつゝあれば近く需用者諸君の満足を得る事と信ずる旨述べられ、最後に名古屋高等工業學校長土屋純一氏は此度社團法人日本鐵鋼協會大會が名古屋市に開催せられ其講演會々場として我校舍を使用せられたる所設備萬端不充分にして多大の不便を感じられたる事と思考するが然し此の如き有力なる學術的講演大會を催され兎に角間に合ひたる事は最も光榮とする處なりと結ばる。

以上にて5分間演説を打切り河村會長閉會を宣す、時に午後9時半なりき。

晩 餐 會 席 上 挨 拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 曉

今回日本鐵鋼協會第十一回講演大會を當地に於て開催の機會を以て會員の懇親會を兼ね旁々當市々長閣下始め有力なる御方々を御招待申上ましたる處御多用中に不拘多數御

來會を辱ふしたる事は本會の光榮とする處であります。從來本會は毎年2回大會を開く事になつて居ります、乃ち春季には本部の所在地たる東京に於て又秋季には主要鐵鋼生産地方に於て開會するの例でありまして從來開催したる地方は東京5回、八幡2回、大阪2回、室蘭1回となつて居ります、今回御當地に開催したる所以は從來とは少しく趣を異にして居ります、乃ち當市は一、二特殊鋼生産の工場はありますが所謂多量の鐵鋼生産地ではなくして寧ろ鐵工機械其他の工業地と目す可き土地であると考へますが申す迄もなく鐵鋼の事業は所謂基礎工業中の最も基礎をなすものでありまして特に機械工業とは最も密接なる關係を有するものであります、乃ち鐵鋼業の進歩發達に連れて機械も進歩し又機械工業の進歩に従ひ其要求を充す可く鐵鋼業の發達を促進すると云ふ様な關係になつて居りますので從て御當地に於きまして機械工業の進歩發達に伴ひ近年鐵鋼の事に趣味を有せられ之が研究に志して居らるゝ方も多く本會會員の數も増加して参りました、之が今回御當地で大會を開催するに至つた次第であります幸にして非常の盛況を呈し出席會員200名に上ぼり研究部會、通俗講演會を合算致しますと講演數36に達し殊に通俗講演の如きは聽講者400餘名の多數に及びました事は欣喜に堪えざる次第であります、若し之の企によりまして鐵鋼生産方面と使用者方面との關係を一層密接ならしめ幾分でも兩者相互の進歩發達を助長するに効果ありと致しますならば鐵鋼學術技術の振興機關たる本會の目的達成に一步を進めたものでありまして本會の欣幸とする處であります、願くは今後數年後再び當地に於て本會大會の開催さるゝ場合は今日に倍するの盛況を呈するに至らん事を私の希望して已まざる處であります、而して御當地は土地は廣く人は多く勞銀は廉にして而も勤勉であり思ひ可き勞働爭議の如きも極めて稀で、交通は四通八達の便を占め加ふるに作業に必要な電力の發生地で工業の勃興し得る凡ての要素を具備して居るのでありますから私の希望は必ずや實現するものと信じて疑はないのであります、尙ほ本夕は懇親を兼ねる譯でありますから此機會を利用して一言所感を述べて會員諸君に寄せたいと思ひます。顧るに本邦の近代的製鐵鋼業は凡ての他の諸工業と同様明治維新後に其端を發して居るのでありまして其以前過去數百年に亘る長き鎖國時代に於きましては只砂鐵を原料とする極めて小規模の製鐵事業と之より生産する鐵鋼を利用して製作せる刀劍類の世界に誇るも

のがあつた計りであります、明治維新以來廣く智識を世界に求め彼の長を採り我短を補ふ事となりましてから或は彼地に人を派して彼の技術を傳習し又は外人技師を招聘して近代的製鐵鋼業を習得致す時代乃ち模倣時代と云ふものが相當長い間續きました、乃ち明治初年より世界大戰開始迄の期間約 50 年が之の期間でありまして私は之の期間を假りに第 1 期と名づけます、之の期は模倣時代又幼年期とも申す可きものであります、此際の事でありました長くも明治大帝の御製にも「外國に劣らぬものを作る迄工の技を勵めもろ人」と仰せられて居るのでありまして之の御製は已に御覧になつた方も多かると思ひますが八幡製鐵所の本事務所の陳列品室に大書掲載せられて居ります、我々の先輩は之の大御心に感奮して大に努力盡瘁せられ亦我々も先輩の驥尾に附し聊か努力致した次第でありますが世界大戰に至りまして外國品の輸入杜絶によりどうしても自給自足を計らねばならぬ事となり茲に第 2 期の自力研究時代が開始せられたのであります但し此期間はまだ半ば模倣、半ば自力研究時代と申さねばなりません、之の期は青年期と申す可きものであります。かくして大正時代を經過し昭和の御代となりましては 今上陛下の御勅諭にも**創造に努め模倣を避けよ**と云ふ御言葉があります、茲に一段の力を得ましたのと一昨年末金輸出禁止後爲替關係から外國輸入品の壓迫より免れましたので急劇なる發展を遂げまして第 3 期の壯年期に入りて今日に於ては我國の製鐵鋼業は技術的にも經營的にも彼國に劣らざるのみならず生産品の品質に於て却て彼を凌駕するものあるに至りました事は欣快に堪えざる次第であります、乍併世界の進運は是に止まるものではありません、我一步進めば彼も亦一步進む所謂日進月歩の世の中でありますから我々は更に大に勇を鼓して將來永久に外國に後れを取らぬ様一層の努力を續けねばなりません、而して之は實に今日の青壯年技術家諸君の双肩に懸る處の重責と考ふる次第であります。以上は鐵鋼に干連して申述べましたのでありますが特殊の例外を除き他の工業に於ても略ぼ同一の事が云へると考へます。

皆さん本夕は折角御光來にも不拘萬端不行届でありますが何卒其點は御寛恕の上緩々御閑談あらん事を希望致します。

終りに臨みまして今回の大會に就きまして準備の爲め多大の御同情と御盡力とを賜はりましたる委員長、副委員長、委員各位、講演者御一同並に明日より見學させて頂く

處の各工場主腦者各位に對し深厚なる感謝の意を表します、尚ほ市長閣下始め本夕の來賓各位の御健康と當市の御繁榮とを祈る爲め茲に皆さんと御一諸に乾杯致したいと思ひます。(一同起立乾杯)

第 3 日 工場見學の狀況大要 (松良委員)

10 月 18 日 (水曜日) 曇天、午前 9 時大同電氣製鋼所熱田工場に參集會員 179 名。受付にて同社パンフレット及ガイドウダム砥石を贈與せらる。休憩室にて下出社長の挨拶に次ぎ常務取締役川崎舍恒三氏より同工場の設備に付き約 20 分間の説明あり、河村會長より其厚意を深謝し、數班に分れ工場内を詳細に見學す。終りて、A 班は自動車にて三菱航空機會社へ、B 班は徒歩にて、日本車輛會社に向ふ。

A 班

午前 10 時 20 分三菱航空機株式會社名古屋製作所に參集 83 名。パンフレット贈與所長後藤直太氏の挨拶あり、島岡評議員一同を代表して謝辭を述べ、後數班に分れ場内を詳細に見學。同社にては特に晝食の饗應あり、食後暫時休憩の後自動車にて次の工場へ向ふ。

午後 1 時 30 分日本碍子株式會社參集會員 62 名。常務取締役江副孫右衛門氏の挨拶あり、之に對し河村會長謝辭を述べ、工場の諸工程を詳細一巡し終りに東洋第一と云はるゝ 1,000,000 ヴォルトの高壓電氣試験裝置の實驗を見學、次の見學工場に向ひ自動車を馳る。

午後 2 時 50 分株式會社大隈鐵工所參集者 64 名。パンフレット贈與あり、取締役營業部長鶴澤一作氏の挨拶に對し河村會長謝辭を述べ、同工場も數班に分ち、工場内を詳細に見學し、豫定の如く午後 4 時散會。

B 班

午前 10 時 10 分、日本車輛製造株式會社、參集者 95 名。パンフレット贈與あり、約 20 名宛の班に分ちて工場内を詳細に見學す。終て自動車にて愛知時計會社に向ふ。

午前 11 時 30 分愛知時計電機株式會社、參集者 96 名、階上休憩室に於て同社長青木謙太郎氏より挨拶あり、水谷理事より謝辭あり續て晝食の饗應を受け、パンフレット及記念品を贈與せらる。食後 10 名宛の班となり工場を見學す、再び自動車にて名岐鐵道柳橋驛に向ひ午後 2 時 30 分發須ヶ口驛に着く、驛より徒歩 2 分にて豐田式織機工場に連す。

午後 3 時、豐田式織機株式會社新川工場、參集者 95 名。休憩室にてパンフレット贈與、常務取締役土屋富五郎氏の挨拶、水谷理事の謝辭ありて後工場内詳細見學を終り、須ヶ口より乗車柳橋驛に下車散會。時に午後 4 時 30 分。

第 4 日 10 月 19 日 (木曜日) 雨、午前 9 時千種兵器製造所に參集、160 名、休憩所に於て、名古屋工廠長黒須少將の挨拶、横井陸軍技師の説明、河村會長の謝辭ありて後、數班に分れ工場内を詳細に見學。終て自動車にて雨中三菱電機工場に向ふ。

午前 11 時 10 分、三菱電機株式會社名古屋製作所、參集者 117 名、天幕内の休憩所に於て茶菓の饗を受け、同所長本間龜吉氏より挨拶、評議員齋藤大吉氏の謝辭の後、數班に分れ工場内を詳細に見學す。終て同社の好意により自動車にて電車停留所迄送られたるは特に感謝すべきなり。散會午後 0 時 30 分。

以上各見學工場に於ては、何れも懇切なる案内と詳細なる説明を加へられ參加會員一同多大の満足と深き感謝に満ちて見學を終了したる事を特記す。